

石川 大輔 介護福祉士

小規模多機能ホームうすづか
副主任（熊本県）

私はこれまで特別養護老人ホーム、グループホームでの仕事を経て、4年前から小規模多機能ホームで働いています。

うすづかでは、利用者が住み慣れた自

宅や地域で、これまでの暮らしを続けることができるよう支援しています。その中で気付いたことが二つあります。

一つは、「私たちが必要以上に介護することが、本人の力を奪っている」ということです。本人主体のケアの大切

さは分かっていますが、いつの間にか支援する側・される側の関係になってしまったり、時間に限りがあるという本人ができることにまで手を出してしまうことがあります。また「できないだろう」という私たちの勝手な思い込

関わりの中で見えたもの

しまわないよ
う必要な支援
を見極め、絆

みが、本人の意欲やできることを奪っているということに気が付きました。

もう一つは、「地域力・なじみの関係の重要性」です。

施設で過ごす時間が増える
と、自宅に居ないと思われたり、私たちが介入すればする
（群馬県、リハビリ・ア
ソシエーションの柘澤奈英さ
んにパトナタッチします）